

団体名	所在地	事業名	事業概要	助成額
一般社団法人 こばんち	那覇市	こばんち不登校支援2024	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所活動の一環として、新たに不登校児童を支援する環境、体制を構築します。 ・地域において放課後 子ども達が自由に利用できる居場所として週5日開所します。 ・マルチ型の居場所として多様な活動（子ども食堂、学習、保健教室、エイサー、クッキング、制作等）を用意し、子ども達が足を運ぶきっかけを増やしなが、不登校児童が学校に戻る機会として友達との交流をサポートします。 ・不登校児童の保護者が孤立することがないように、保護者交流会の定期開催を行い安心感の向上を図ります。必要に応じて個別相談にてメンタルケアのサポートをいたします。 ・アセスメントシート・個別支援計画書の作成し、関係機関と連携しながら、不登校児童の個々に寄り添ったサポート体制を構築し支援します。 ・学校指定のタブレット学習をサポートしながら、必要に応じて教育ICTを活用した学習支援環境を整備し、振り返り学習や学びの遅れ・発達特性に応じた基礎学習のサポートをします。 ・古波蔵地域において子どもに関わる関係機関、学校・民生委員・SSW・CSW・児童館・子どもの居場所・包括支援センター・教育委員会等とつながり、顔の見える地域連携ネットワークを構築し、定期MTGを開催を目指します。 ・上記事業を行うため、事業責任者（代表）1名の他、事業担当者2名、事業担当補助3名、調理担当1名、経理担当1名、総務担当1名の体制をとります。 	総額 16,000,000 直接事業費 14,787,997 管理的経費 1,212,003
特定非営利活動法人 シンコペーション	浦添市	サウンド プロジェクト2024	<ol style="list-style-type: none"> 1：不登校児童・生徒の支援として既存施設児童館を活用した活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども食堂での食事支援（会食・パントリー） (2) 学習支援（来所対面方式・ICT活用型・オンライン型） (3) 学習に取り組む以前の社会生活の体験（対人コミュニケーションの積み重ね） 2：子ども貧困解消のための体験活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽管弦打楽器の体験による支援活動（プロオーケストラ団員・県立芸大学生による直接指導）と成果発表会の実施。ベネゼエラ発祥「エルシステマ沖縄版」を目指し、家庭環境に左右されることなく質の高い教育を受ける権利を履行する。 (2) プロダンサーによる「ダンスクラス」の実施。コミュニケーション不足な子どもたちの中には「身体を動かす」ことにより心身の不安から解放される傾向がある。動の活動も取り入れより多くの子どもたちを支援したい。 3：社会課題に取り組む若者支援策として <ol style="list-style-type: none"> (1) 大学生との協働により、不登校児童生徒の支援方法、学習支援のコンテンツ開発、ICTツールの活用方法などを開発する。 (2) 社会課題に取り組む若者世代が不安なく活動を継続できる環境作り（ネットワーク）のために研修会、情報交換会、視察を実施する。 4：上記1から3の取り組みを網羅しコレクティブインパクトを見える化する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自団体だけでなく、県内同様な支援を行う団体との学習会、専門家による支援を受ける機会、行政、地域、企業を含めた集団でのワークショップの開催。 5：活動を有効かつ持続的にしていくための自団体組織基盤強化とファンドレイジング <ol style="list-style-type: none"> (1) 自団体は2名の准認定ファンドレイザーを有しており、自団体の組織基盤強化に取り組むため専門家（会計士・税理士・社労士など）からの支援を受けながら資金獲得のための広報活動に力を入れる。 (2) ガバナンス・コンプライアンス・第三者評価を受けるための取り組みを行う。 	総額 16,000,000 直接事業費 13,030,130 管理的経費 2,969,870

<p>一般社団法人 3ぴーす58</p>	<p>沖縄市</p>	<p>今こそ立ち上がれ!! 誰一人取り残さない地域で持続可能な子育て支援ネットワーク構築事業</p>	<p>沖縄市における子どもの貧困や不登校児童・生徒の問題は複雑で解決には時間がかかります。しかし、関係機関が連携し地域住民の理解を得ながら、子どもたちへの支援を強化していくことで、課題解決に向けて一歩ずつ進めていくことができると私共は考えています。</p> <p>生活困窮家庭やひとり親家庭への支援として食料・生活必需品の支援などを実施し、学習支援としてオンライン学習環境の整備を進め、放課後や長期休暇中の学習支援プログラムの実施、子どもの居場所事業として子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進め、地域のボランティアや民間団体との連携を強化します。</p> <p>親への支援として子育てに関する相談窓口の設置、育児支援プログラムの提供などの支援を充実させ、就労支援や経済的自立支援を沖縄市就職・生活支援パーソナルサポートセンターと協働で実施します。</p> <p>不登校児童・生徒への支援として、個別の学習指導やカウンセリングを行い不登校児童・生徒のニーズに合わせた支援を提供、不登校の子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供し学校、児童館、公民館の連携を強化します。</p> <p>また、学校復帰に向けた支援を行う適応指導教室を充実し社会復帰に向けたプログラムを提供する。</p> <p>この他に不登校児童・生徒や保護者への相談体制を強化し専門家による相談支援を提供。</p> <p>私共におきましても、不登校児童・生徒への対応方法に関する職員への研修を実施し職員の負担軽減のための体制整備を行います。</p> <p>関係機関との連携として、私共と行政、学校、地域民間団体などが連携し子どもたちへの支援を強化していくことが重要であると考えており、地域のネットワークを構築し、情報共有や共同事業を進めたいと考えています。</p> <p>子どもの貧困や不登校の問題は、地域全体で取り組むべき課題であることを広く理解してもらう必要があることより啓発活動や理解促進のための体験学習、地域イベントなどを開催します。</p>	<p>総額 16,000,000 直接事業費 13,845,305 管理的経費 2,154,695</p>
<p>一般社団法人 レアーズ</p>	<p>読谷村</p>	<p>多様な学び・多世代交流の地域連携構築事業</p>	<p>不登校児童・生徒、引きこもりの子どもは全国的に年々増加しています。私たちの活動地域である沖縄県中頭郡読谷村でも、年間90日以上学校を休む児童・生徒は年々増加しています。(読谷村青少年センター・小中学校との情報交換)</p> <p>読谷村内の不登校児童の居場所は少なく、交通の不便さから、なかなか利用に繋がらない状況やアウトリーチ等の支援がない事、またスクールソーシャルワーカーがいない事から、学校で把握している情報をどこに情報共有や支援の連携、サービスに繋げるか分からないという状況があります。</p> <p>当法人は、このような社会課題に対し、当法人の強みでもある地域連携を活かし、さまざまな関係機関・企業・自治体・地域の方々に「不登校児童について考えるきっかけ」「互いの強みや出来る事の掘り出し」「地域ネットワーク構築」「定期的な地域円卓会議」等を行い、当法人だけでなく地域で支え合う体制整備や新たな社会資源の開発を目指していきます。</p> <p>現在取り組んでいる「こどもの居場所づくり事業」に新たな機能を加え、当校児童に対し個別支援計画書の作成、モニタリングの実施、アウトリーチ支援・様々なケースに対応できる環境整備・多様な学び（学習支援（タブレット）・体験活動・多世代交流・お仕事体験・農作業・スポーツ活動）の提供、学校以外で同世代の子ども達と交流ができる機会を創ることや地域の大人と交流する機会の提供を行います。また、誰でも気軽に来れる空間を提供し、保護者と関わるきっかけづくり、関係を築き、保護者のレスパイトや不安解消に向けた相談援助を行っていきます。</p> <p>これまでの活動の中で出会った児童・生徒、保護者やこれから出会う方々が、それぞれの個性や特性が尊重され、安心安全に過ごせる空間や好きな事、目標に出会い活躍できる場所を創っていきたいと思います。</p>	<p>総額 16,000,000 直接事業費 12,803,472 管理的経費 3,196,528</p>

<p>一般社団法人 おーきな笑</p>	<p>うるま市</p>	<p>悩む子ども達が頼れる大人を探し 生きる力を見つける支援事業</p>	<p>本事業ではうるま市の島嶼地域の小学生を対象に下記のことを実施します。 ①送迎付きの学習②体験活動③日中の居場所の提供 対象:家からは出れるが学校へ行けない、行かない選択をしている不登校や行き渋りとなっている子ども達 頻度:週に3日、4時間程度 開催場所:島嶼地域内の旧学校などの施設や公民館を想定 活動目的:学習支援・食事支援ができる居場所の提供を行い、生活リズムの安定化や学習の遅れ対策、体験の機会を作る。また放課後にも誰でも来れる居場所を開催することで不登校予備軍の子ども達が気軽に相談できる居場所を開催する。 日中の食事支援としてスタッフと子ども達が共に献立を作り買い出し、調理、片付けまで行うことで生きる力、体作り、生活習慣の流れを作る。また体験学習として子ども達のやってみたい・行ってみたい・挑戦してみたいに寄り添い小さな成功体験から社会へ繋がっていけるよう環境作りを行う。学習支援として紙媒体でのプリント学習からパソコンを活用し調べる、アプリを活用し学ぶ、オンライン学習会に参加してみるなどレベルに合わせて子ども達と共に向き合う。年度の後半には島嶼地域のみならずうるま市全域へ角川ドワンゴ学園と市教育委員会が2020年から続けている取り組みで、小中学生対象に島を出なくても最先端のICTを学ぶことができるネット部活へも繋いでいけるよう取り組む。行き渋りの子どもや不登校気味の子ども達が気軽に話せる友達や大人・相談ができる人がいることを知り、たくさんの人に関わって行くことで子ども達の刺激となり、親・学校の先生以外で相談できる人を作り、更には体験学習を活用することで新たな自分自身の道を見つけるきっかけや社会と繋がっていける環境を提供する。地域で子ども達を見守れるよう地域の方と協力しチームを組んでサポート、各種関係機関とも話し合いができるよう環境作りに取り組む。</p>	<p>総額 16,000,000 直接事業費 13,628,500 管理的経費 2,371,500</p>
<p>特定非営利活動法人 にじ子屋</p>	<p>うるま市</p>	<p>みんなの居場所「HUB.OKI.LOVE」</p>	<p>①現状認識と今後の方針 個人事業から始めた活動期間3年間の中で、支援コンテンツや協力者のネットワークづくりが進み、不登校生支援のための仕組みが固まりつつある。本事業では法人化をきっかけにこれまで培ったノウハウ・ネットワークを活用し、事業の幅を広げていくことを計画。「経済的に当スクールに通えない児童・生徒向けのサポート体制の強化」と「若者の社会復帰・社会進出支援」を目的としたコミュニティ事業の立上げに取り組む。 ②児童・生徒向けサポート体制の強化 当スクールは国籍・人種・障がい等に関係なく、それぞれの個性を生かせるダイバーシティーなフリースクールを目指しているが、経済的な理由で当スクールに通えない子どもも多くいると思われ、支援は十分に行き届いていない。本事業ではこの課題の解決に取り組む。地域の子どもが集まる場として、現在行っている子ども食堂の取組み、「ちきゅう屋食堂」の活動をベースにスクール生向けコンテンツを地域の子ども達向けにも開放。子育て相談や若者の情報交換なども活発化させながら、子どもたちの自立支援を目的とした地元の大人・事業者とも連携した地域コミュニティを創出する。 ③若者の社会復帰・社会進出支援 上記コミュニティは不登校経験者等で社会に馴染めず仕事の継続が困難な若者の社会復帰の場としても活用していきたい。当スクールのスタッフは元不登生が中心。当スクールは活動を通して若者の社会復帰支援も担っていると捉えている。活動の幅を広げるため積極的にこういった若手人材をスタッフとしても採用予定。子ども向け企画を実行する中で、社会復帰・進出の第一歩としての役割を担わせていきたい。また、本取組みは当スクールの広報活動にもなるため、スクール生の増加効果も期待できる。事業期間1年間でスクール生も増やしていき、事業として雇用・コミュニティの継続に向けた仕組みづくりを進める。</p>	<p>事業費 16,000,000 直接事業費 13,036,450 管理的経費 2,963,550</p>

公募の実施概要：

申請希望団体は事前登録の上（26団体の事前登録）、2024年4月11日締切で申請書類を提出（14団体が応募）

1次審査:書面による要件審査（11団体が1次審査通過）

2次審査：追加書類の提出、書面審査と申請団体すべてにZOOM面談を実施（9団体が2次審査通過）

3次審査：外部審査委員による面接審査を実施 審査会による内定団体候補6団体を選定

理事会にて6団体の内定を正式に決定しました

※ 助成額は実行団体よりご提出いただいた事業計画書、資金計画書に基づき算定しています。